

人の集まりを
デザインする

愛媛県立松山西中等教育学校

藤岡祐太

◎ 動機・活動内容概要

近年、直接的な人と人との触れ合いが少なくなり、情報通信技術の発達により、SNS等を利用した間接的なコミュニケーションがふえてきている。それと同時に人と集まる機会も減ってきているように感じる。家族の集まり、友人や仲間との集まり、地域の人の集まりを増やしたいと考え、野外活動施設づくりに取り組んだ。

ローテク、持続可能な開発をコンセプトとし、単なるものづくりではなく、仕事をやり、人の集まりをつくり、制作段階から新たなコミュニティの創出に取り組んだ。

キャシミアトを選び、自分たちだけで作りあげた。完成したら終わりではなく、常に人の手がかかり、維持していかなければならない。これはローテクが在る限り、しかも、かみはメソットとして捉える。仕事をやり、人の集まりがでるから。資材は製材所から出た廃材等を使用した。限られた資材で行かづけるか、逆の発想で好きなものを生み出した。

施設が一旦完成し、今は思い出づくり、学ぶ機会をつくる。大まかに2人の集まりをついている。友人の誕生日祝いで利用したり、木工教室を開いたり、祖父母が指導者となり、羽がまごはんといたしたりした。

これからもっと人の集まりをデザインしていくつもりである。



◎ 野外活動施設づくり ～仕事をやる～

祖父母の協力を得て、庭にある小屋をベースに開発を進める。

2015年の夏から本格的に始動。コンセプトは

ローテク・持続可能な開発

誰でもできるローテクな開発。キャシミアト・依託を避けず自分たちの手で作りあげた。そうすることで**仕事をやり、人の集まり**ができた。



材料は製材所から出た廃材



たくさんの友人が力をかしてくれた。
新たなコミュニティも生じた。



高校生による
ローテクな開発
自分の手で作る



持続可能な開発。

廃材を大いに活用した。
限られた材料で何が出来るか 逆の発想



全てローテックが生んだもの。
つくりが簡単のため、部分補修が容易に廃材でつくったテーブル
できる。

耐久性のよいものではなく。
ローテック、ローコストで持続可能な
ものをつくる。

小屋も、スクラップコンクリートで
はなく、常人の手を加えながら ちよとした芸術品まで!!



董機も自作



ローテックの石窯

古い石臼を活用(邦産のガリ) 維持していく。



ローテックの排水設備



3行3階
が蒸し物
の活用

高校生の手で
こまてできた!

- 地域社会に生かせること
- ・ローテックが雇用を生む
 - ・ローテックからできた持続可能な開発
 - ・自治

@施設の活用 思い出を作る 学ぶ機会をつくる



友人の誕生日会を開いた。
野外活動には協力が不可欠である。
役割分担し、1人1人が主体的に働く。
近年減少しつつある人と人との直接的な
出会いを取り戻す。
ここでしかない、かけがえのない思い出づくり



調理係



薪係



人と人の
直接的な
出会い



エネルギー自給



エネルギーは全て薪でまかなっている。これも廃材所から出た廃材

友人同士の 横のつながり

思い出を作る



祖父母が指導者となり、孫は祖父母から孫に昔のくらしを教える。生きていく大切なことを学ぶ。

子どもからお海寄りまでの 縦のつながり

学ぶ機会を作る



木工教室を開いた。
新たなコミュニティーの創出

- 地域社会に生かせること
- 横のつながり、縦のつながりを兼ね備える
- 学ぶ機会を提供する



@活動を通して

野望で終わってしまうかとも思った野外活動施設づくりだったが、多くの人の協力を得て、なんとか完成することができた。とりあえず完成したものの、人の手を加えなければ維持できない。あくまで自治を合言葉に携わっている人皆で維持し、また発展させていきたい。この施設は私が目指す地域の「ア」となる場の縮図とも言える。施設づくりから学んだ、ローテックが雇用を生む。ローテックからできる持続可能な開発・自治は地域社会においても通用する。地域住民が主体的に関わっているような場をつくらせたい。



常に人の手が加わる

人の集まりをデザイン

施設の活用から学んだ、楯のつながりと紐のつながりを取り備えること、学ぶ機会を提供することも地域に生かせる。地域にはさまざまな人が暮らしている。一緒に楽しめ、時には教え、教われる施設にしなければならぬ。画一化したところにでもある施設ではない。ここしかないことを行かなくてはならぬ。



限られた資源を適材適所に有効に使う

エネルギーも自給

地域社会の「ア」となる施設づくり、活用が求められる。

常に人を中心に考え、

人の集まりをデザインする

